

国頭村営林道長寿命化計画

(個別施設計画)

計画期間

自 令和7年4月 1日

至 令和12年3月31日

国頭村役場

令和7年4月1日

国頭村村営林道施設長寿化計画(個別施設計画)

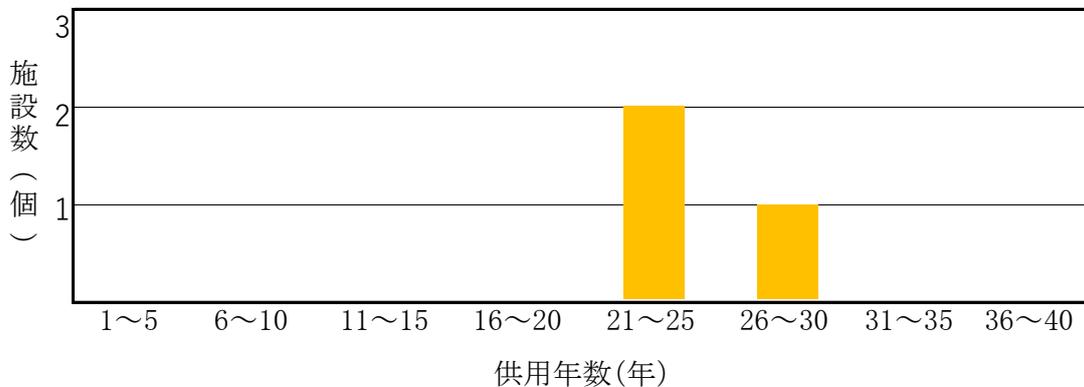
1. 基本計画

当村における林道施設は林道橋3施設である。1999年～2003年にかけて建設されており、供用年数別の林道施設数は下記のとおりである。

現状と課題として日常的な状況把握が困難であり、個別具体的な修繕・更新計画も未策定なことから、現状では対症療法的な管理となっている。

これらを踏まえ長寿化計画を策定し、計画的な点検、修繕を行うほか、予防保全を主体とした施設管理に努め、安全性の確保並びに維持管理修繕費用の縮減及び標準化を推進する。

供用年数別の林道施設数



※財務省令「減価償却資産の耐用年数に関する省令(昭和43年3月31日大蔵省令第15号)」によると橋梁の対応年数は60年とされている。

2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画における施設の優先度は別紙のとおりである。

5. 施設の状態

本計画の策定時点で把握されている施設毎の状況については別紙のとおりである。

6. 対策内容と実施期間

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策内容及び実施時期について別紙のとおり計画する。

7. 対策費用

個別施設毎の対策費用の概算については別紙のとおりである。

なお、この金額は計画策定時点における概算であり、工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号	10	施設管理者	国頭村
路線名	与那林道	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	へいぎ橋
施設の所在地	国頭村字与那	起点からの距離	1.0Km	建設年度	1999
供用年数	26	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	平成8年	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20.26m	幅員(車道幅員)	2.0 m
	施設の構造等	上部工型式	プレテンション方式PC単純中空床版橋		
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無
		支承形式	-	落橋防止の有無	-
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	鋼管杭
橋脚工型式	-		海岸からの距離	2.0km	

施設の目的利用実態等
与那林道の利用区域には、整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。また当該林道は、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道の機能も有しており、地域住民の利用もみられる。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年1月9日			
	調査結果	<p>防護柵支柱に鉄筋の露出が生じている。前回点検より箇所は増加しているものの範囲の拡大は見られない。引き続き経過を確認することとする。</p> <p>防護柵の全体的な範囲にひびわれが生じている、損傷の進行により腐植や破断等、防護柵の機能を損失する可能性が高いため、取り替え等の対応が必要である。</p> <p>防護柵に変形、欠損、ゆるみ、脱落が生じている。処置しやすい箇所にあるため、維持工事にて締め直しを行うのが望ましい。床版にひびわれが生じている。損傷の進行性はなく局部的であるため、次回点検にて経過を確認するものとする。</p> <p>堅壁にひびわれが生じている。局部的な損傷であり進行性もないと考えられるため、次回点検にて経過を確認するものとする。</p> <p>排水管に漏水、遊離石灰が生じている。損傷の進行性はなく局部的であるため、次回点検にて経過を確認するものとする。</p>			
	健全性の診断結果	I (健全)	主要部材については、目立った損傷は見られず健全である。		
	劣化原因	防護柵支柱の鉄筋の露出についてはかぶり不足によるものと推定される。床版及び堅壁のひびわれについては乾燥収縮によるものと推定される。防護柵の変形、欠損、ゆるみ、脱落については車両の衝突によるものと推定される。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和7年度～令和11年度			
	内容	劣化している防護柵の補修			
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいため、令和8年度実施予定。			
	施設の優先度	中	防護柵の経年劣化による木材の腐食が部材広範囲に拡がっており、防護柵の機能が低下していることから補修が必要であるため、優先度は「中」とした。		
	対策費用(概算)	橋面工・橋体工・下部工・仮設工 13,067千円			
管理方法	長寿化対策として、防護柵の補修を行うとともに約5年に1回の定期点検を行う。また排水施設の清掃維持管理作業を定期的に行う。				

	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年
対策費用(百万円)		3.00	13.06			0.70				
対策の内容・実施時期		調査設計	補修工事			定期点検				

備考										

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号	10	施設管理者	国頭村
路線名	与那林道	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	カブチベン仲福地橋
施設の所在地	国頭村字与那	起点からの距離	0km	建設年度	2001
供用年数	24	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	平成8年	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	25.03 m		幅員(車道幅員)	2.0 m
	施設の構造等	上部工型式	プレテンション方式PC単純中空床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	-	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	1.0km		
施設の目的利用実態等	与那林道の利用区域には、整備すべき森林が多く存在することから、当該林道は森林組合等により利用されている。また当該林道は、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道の機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年1月9日				
	調査結果	<p>防護柵支柱に剥離が確認された。損傷は局部的なものであることから次回点検にて経過を確認することとする。</p> <p>防護柵ボルトに腐食が確認された。損傷は局部的であることから、次回点検にて経過を確認することとする。</p> <p>防護柵支柱に遊離石灰が確認された。損傷は局部的であることから、次回点検にて経過を確認することとする。</p> <p>防護柵支柱に鉄筋の露出が確認された。前回点検時からの変化は確認されず、引き続き経過を確認することとする。</p> <p>防護柵の全体的な範囲にひびわれが生じており、損傷の進行により腐植や破断等、防護柵の機能を損失する可能性が高いため、取り替え等の対応が必要である。</p> <p>地覆にひびわれが生じている。前回点検からの変化は確認されず、引き続き経過を確認することとする。</p>				
	健全性の診断結果	I (健全)	主要部材については、目立った損傷は見られず健全である。			
	劣化原因	防護柵支柱の鉄筋露出はかぶり不足が原因で発生しているものと推定される。防護柵の剥離等劣化については、経年劣化によるものと推定される。地覆のひび割れについては乾燥収縮によるものと推定される。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和7年度～令和11年度				
	内容	劣化している防護柵の補修				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮し令和9年度実施予定。				
	施設の優先度	中	防護柵の経年劣化による木材の腐食が部材広範囲に拡がっており、防護柵の機能が低下していることから補修が必要であるため、優先度は「中」とした。			
対策費用(概算)	橋面工・橋体工・仮設工 15,474千円					
管理方法	長寿化対策として、防護柵の補修工を行うとともに約5年に1回の定期点検を行う。また排水施設の清掃維持管理作業を定期的に行う。					

	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年
対策費用(百万円)			3.50	15.47		0.7				
対策の内容・実施時期			調査設計	補修工事		定期点検				

備考

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号	13	施設管理者	国頭村
路線名	宜名真林道	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	ハンダバン 繁多橋
施設の所在地	国頭村字宜名真	起点からの距離	0.7km	建設年度	2003
供用年数	14	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	平成14年	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.98m		幅員(車道幅員)	2.0 m
	施設の構造等	上部工型式	プレテンション方式PC単純中空床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	-	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	場所打ち杭、直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	0.1km		
施設の目的利用実態等	宜名真林道の利用区域には、整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。また当該林道を利用し、畑や近隣地域を結ぶ生活道の機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年1月9日				
	調査結果	舗装に蜘蛛の巣状の軽微なひび割れが生じており、状況に応じて補修を行う必要がある。塗装の路面に凹凸が生じており、凹凸量が大きく走行性が悪化しているため、部分的なオーバーレイ等の補修を施すのが望ましい。林道起点側の凹凸については、オーバーレイ工法により補修されている。伸縮装置に変形・欠損が生じており、前回点検時と比較し箇所は増加し、規模も若干大きくなっているものの影響は小さい。引き続き経過を確認することとする。				
	健全性の診断結果	I (健全)	主要部材については、目立った損傷は見られず健全である。			
	劣化原因	塗装の路面の凹凸については、橋台背面の地盤の沈下が原因だと思われる。伸縮装置の変形・欠損については、経年劣化及び衝突によるものと思われる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和7年度～令和11年度				
	内容	路面凹凸部の補修及び舗装表面の保護				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮し令和10年度実施予定。				
	施設の優先度	中	路面の凹凸が走行に悪影響を及ぼす可能性があるため、優先度は「中」とした。			
管理方法	対策費用(概算)	橋面工・橋体工・下部工・仮設工 6,366千円				
管理方法	長寿化対策として、路面、伸縮装置の補修を行うとともに約5年に1回の定期点検を行う。また排水施設の清掃維持管理作業を定期的に行う。					

	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年
対策費用(百万円)				2.50	6.36	0.70				
対策の内容・実施時期				調査設計	補修工事	定期点検				

備考